

渡辺だいすけ 奔走記

第21号

2025年11月
— 発行者 —
福井県議会議員
渡辺大輔

福井市新田塚1-70-31
TEL.0776-50-2083

県政報告

校内サポートルームの効果と課題！



- 自分らしくいられて楽しい。
- 好きな学習を自分のペースで追及できる。
- 大勢の人が苦手だけどここには自分の居場所がある。



私はこれまで不登校対策として、通常学級に入れずに不登校になっていた児童・生徒に対し学校内でも居場所が確保できるよう「校内サポートルーム」の設置を議会で求めてきました。その結果、県内小中学校に少しずつ校内サポートルームの設置が進んでいます。

さらに9月議会で設置状況・効果の確認と拡充を要望しました！



設置状況

R4	R5	R6	R7
2校	5校	50校	73校

(県内全小中247校中)

効果

小学校	サポートルームを利用する児童が普通教室に戻れた割合	62.7%
中学校	サポートルームを利用する生徒が在校時間や登校日数が増えた割合	58.0%

課題

- ◎支援員の在校時間を6時間にしてほしい！
(5時間では午前中の勤務のみで午後の児童・生徒の支援ができない)
- ◎希望する全ての小中校に設置してほしい！



R8年度に向けて、より多くの学校に設置されるよう強く要望していきます。

今、学校現場でこんな問題が起きています！

例えば…

産休（育休・病休）で担任がお休み！

教員不足で替わりの先生が来ない！
（これが未配置問題）

周りの先生でその学級の
授業を受け持つ！

教員不足

育児で休みたいけど、
周りの先生に
申し訳ない…

自習などが増えて、
子ども達の学習にも
影響が出るかも…

教育委員会

この問題を受け、私は令和6年9月の議会で、
解消に向け強く要望しました。その結果…

- 産休・育休・病休がある無しに関わらず、年度当初から15名の教員（正規8名、講師7名）を代替教員用として採用！（代替教員雇用制度）各市町の拠点校に配置。
- 休む先生が出たら、すぐに配置できるよう制度化。

全国に先駆けて、
県単独予算で
実施！

この制度によって、未配置問題は解決したか？

今年度（令和7年度）8月時点での未配置は18名
（昨年度8月時点での未配置は28名）**多少は改善。**

代替雇用の教員が15名では、まだまだ足りていない！
令和8年度に向けて、代替雇用の教員をより多く配置する必要がある！
（令和8年度は**40名程度**を要望しています）

★このことを9月議会で質疑した切り取り動画はこちら！

■ 渡辺大輔公式ホームページでもご覧いただけます。
<https://watanabe-daisuke.jp/blog/153/>



YouTube

福井アリーナについて考える！



こんなができるんだあ。
建設費はいくらかかるんだろう？
アリーナの使い道は？
僕たちも使えるのかなあ？
アリーナ周辺は混雑しないのかなあ？



用途

用途	利用日数
プロスポーツ	63日
コンサート	24日
国際会議 展示・イベント	60日
県民利用枠	115日
市利用	19日
メンテナンス	15日
合 計	296日 +α

134日の内、
県民利用枠として
115日分を県が
年間1億8,000万円で
買い取ります。
10年間は継続して
買い取ることを
契約時に約束します。

建設費

建設費	内 訳	資金額
150億円	国	30億円
	県	15億円
	福井市	15億円
	寄付・出資 企業版ふるさと納税	25億円
	銀行融資	30億円
	ふるさと融資	35億円
	合 計	150億円

場 所



今後の議会で、しっかりと要望・質疑をしていきます！

- 県民利用枠（115日分）の具体的な利用計画と、年間1億8,000万円の妥当性。
- プロスポーツ・コンサート開催時の送迎車など、アリーナ周辺の混雑問題。
- 駐車場問題（来場者用は無し）。
- 県民への説明と理解。

フリートーク



私は議員になる前、教員としての最後の学校が地元の小学校だったので、その時から、いろんな子ども達と会話をしながら登校の付き添いをしています。その中の、ある女子児童（Aさん）の話です。

Aさんは現在6年生で、数年前から集団登校で会うたびに会話をしています。Aさんを見つけて「おはよう!」と声をかけると決まって「ああ、学校がイヤだ、学校がイヤだ」から会話が始まります。不思議なことに、テレビやゲームの話、動物の話、星の話などを持ち掛けると、とても楽しく話に夢中になります。他の友達を交えての話にも楽しそうに加わります。話をしてみると、とても知識が豊富で、感受性も豊かなことが分かります。

そうやって歩きながら、学校が近づくと再び「学校がイヤだ、地獄が始まる」と言いながら校門をくぐっていきます。でも、特段何か理由があって学校を嫌がっているわけではないみたいです。学校に入ると嫌がっていたのがウソのように友達と楽しく振舞っています。今では「学校がイヤだ」は、むしろ私との朝の挨拶がわりとなっているようです。

近年、学校現場でも「レジリエンス」という言葉を耳にするようになりました。レジリエンスとは、困難や逆境にあっても、しなやかに立ち直る力の事です。私は、上記のAさんは、そうした力の持ち主であるような気がします。多くの子ども達は、学校が「イヤ」と感じて、周囲の期待や同調圧力から、そうした気持ちを押し込めてしまいがちです。そのことが、自分をより辛い状況に追い込んでしまいます。Aさんは、学校がイヤだという感情を無理に抑えず、言葉にすることで自分を受け入れています。さらに「イヤだけど行く」ということで、困難さを完全に克服するのではなく、イヤな気持ちを抱えながらも、目的に向けて行動し続けることができます。「地獄が始まる」の言葉は強烈ですが、これも自分の置かれた状況について、ユーモアのある表現に変えながら前に進むことができます。こうした行動をし続けることで、自然とレジリエンスが身についていくのだと思います。

今回の話は、困難さの一例として、学校がイヤだという児童の様子を取り上げましたが、決して不登校の解決策を伝えようとするものではありません。私は学校に行かない選択肢もあると思うし、そのために別の居場所を作るための取り組みも進めています。

私たちは、混沌とした社会で生きている中で、時に嫌だという気持ちを打ち消し、「頑張らねば」と追い込むこともあるかも知れません。しかし、**本当の強さとは、嫌だと思ふ状況や自分を認め受け入れながらも、自分を見失わずに前に進むこと**なのかも知れません。

朝の通学で見かける小さな背中から、「折れない心」の意味を教えられたような気がします。



お困り、
お悩みなど
ありましたら
ぜひ
ご相談を!

渡辺大輔事務所

〒910-0067 福井市新田塚 1-70-31

TEL.0776-50-2083 FAX.0776-50-2086

E-mail d-wat571@outlook.jp

<https://watanabe-daisuke.info/>



Facebook用



オフィシャルサイト